

九代教授

# 荒田次郎 教授

昭和63年(1988)―平成13年(2001)



昭和63年4月に高知医大より、岡山大学皮膚科学教室教授に就任された。昭和63年4月～平成13年3月の13年間に教室の発展にご尽力されたばかりでなく、岡山大学そして日本皮膚科学会の発展のため多大な足跡を残された。荒田教授のお人柄は温厚で寛大であるが、意思は強く、信念を貫かれ、座右の名である「**情熱の持続**」を実践された。

## 研究

荒田教授は谷奥時代に野原班の皮膚代謝班に所属し、皮膚とビタミンB6、特に、その皮膚内代謝を研究され、臨床的には皮膚感染症および化学療法を担当された。**プロリダーゼ欠損症**の研究も高知医大から継続的研究された。皮膚の**細菌感染症**の基礎と臨床、特に黄色ブドウ球菌の問題、アトピー性皮膚炎、皮膚のinnate defense mechanismの一つとしてデフェンシンの研究へと教室の研究が進んでいった。さらに水疱症、表皮ケラチノサイトなどの研究もなされた。対外的な活動として厚生省のアトピー性皮膚炎研究班、シックハウス症候群の病態解明の研究に取り組みされた。

## 学会関連

平成7年日本研究皮膚科学会、平成9年日本皮膚科学会総会、平成12年日本化学療法学会総会を主催された。また日本皮膚科学会西部支部総会、日本化学療法学会西日本支部総会、第37回ブドウ球菌研究会、第12回Bacterial adherence研究会、アトピー性皮膚炎治療研究会なども主催された。1995年に**Tanioku Kihei Memorial Award**が本研究皮膚科学会の創設に努力された**谷奥喜平教授にちなみ、岡山大学皮膚科同門会を中心とした寄付金により設立された**。毎年、皮膚科学または皮膚科学と密接に関係した研究領域において優れた業績をあげた国内・国外の研究者による講演が行われている。

## 人材育成

荒田教授のもと、現在の中核病院の指導者となる優秀な皮膚科医が多数輩出された。さらに藤本、大野、戸井、辻、中西、佐藤、平川、白藤ら、多くの若手医局員を次々に留学させた。

## 病院行政

平成10年に岡山大学医学部附属病院長として、新病棟の建築、病院運営の改善、医療安全管理、本島分院の廃止、卒後臨床研修、保健学科設置への対応、事務部の改組ならびに統合などの問題に着々と道筋をつけられた。特筆すべきは1998年**国内初の生体肺移植に対応**されたこと、**形成外科教室の創立**に奔走され、形成外科界トップの光嶋勲教授に選ばれた。